

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

がん医療情報提供・相談支援に関わる地域差と地域ニーズの検討

研究分担者 調 憲 群馬大学大学院肝胆膵外科・教授

## 研究要旨

本研究の目的はがん患者への情報提供・相談支援体制を効率化するために不可欠な人材の育成を通じて、相談支援・情報提供体制の在り方を考え療養を含めた地域情報づくりモデル等を提案することである。我々はがん医療ネットワークナビゲーター（以下、がんナビと略す）養成プロジェクト（H26-がん政策-一般-007）で当初福岡、群馬、熊本3県のモデル事業で養成されたがんナビを14県の重点地域まで広げ、がんナビ374名、シニアナビ79名まで調剤薬局の薬剤師を中心に増加した。一方、がんの情報提供・相談支援に関する地域のニーズを明らかにするために平成30年度にはがん診療連携拠点病院の相談支援センター/地域統括相談支援センター/医療・ケアネットワーク等を対象としてアンケート調査を行った。居住介護支援事業所・ケアセンターにおいても多彩なニーズがあり、特に地方においてはがん患者やその家族はがん治療に関する情報はもちろんのこと介護や療養に関する情報提供を行う人材が望まれていることが明らかになった。このような市井の人材を養成することで、がん患者やその家族へ適切な情報を提供できる体制を構築していく。

1) 生活圏で異なる多様なニーズに対応し、求められるものへと正確につなぐ<地域完結型情報提供・相談支援体制>の確立を目指す。その前提として必要とされる「がんの情報提供や相談支援に関する地域のニーズや問題点」を明らかにする。とくに群馬県は少子高齢化の進んだ過疎地域を抱えており、その地域事情にそくしたがん医療に関する情報の提供体制を構築する必要がある。

2) 地域の情報提供・相談支援体制とこれを補強する人材養成プログラムとを検証し、地域ニーズの抽出に基づく相談支援・情報提供体制の在り方、これを効率化する人材の育成と介入モデル、介護・療養を含めた地域情報提供モデル等を提案する。

### A. 研究目的

1) 生活圏で異なる多様なニーズに対応し、求められるものへと正確につなぐ<地域完結型情報提供・相談支援体制>の確立を目指す。その前提として必要とされる「がんの情報提供や相談支援に関する地域のニーズや問題点」を明らかにする。とくに群馬

県は少子高齢化の進んだ過疎地域を抱えており、その地域事情にそくしたがん医療に関する情報の提供体制を構築する必要がある。

2) 地域の情報提供・相談支援体制とこれを補強する人材養成プログラムとを検証し、地域ニーズの抽出に基づく相談支援・情報

提供体制の在り方、これを効率化する人材の育成と介入モデル、介護・療養を含めた地域情報提供モデル等を提案する。

が作りを模索し、さらに養成したがんナビの活躍の場を提供できる体制を構築する。

(倫理面への配慮)

本研究では介入試験は行わないが、モデル事業における評価は疫学研究の対象になると考えられ、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守してこれを行う。

### C. 研究結果

1) 頻回の会議やメール審議の議論に参加し、アンケート調査を完成した。群馬県における病院・診療所・地域統括センター・訪問看護ステーション・居宅介護事業所・訪問看護事業所・訪問介護事業所・保険薬剤薬局・市町村の窓口・保健所・公共図書館・患者会などのリストアップを行った。群馬県 298 施設へアンケートを送付した。その結果、121 施設から回答を得た(回収率 40.6%)。

回答の属性として、群馬県では居住介護支援事業所・ケアセンターが 36.4%と最も多く、次いでがん診療連携拠点病院で 12.4%であった。

居住介護支援事業所・ケアセンターが相談支援や情報提供の実施においてニーズを感じている項目として、ホスピス・緩和ケア、不安・精神的苦痛、コミュニケーション、グリーフケアに関するものが多かった。

一方、拠点病院からは治療、検査、症状、セカンドオピニオン、紹介、在宅、緩和、社会保障制度、不安や精神的苦痛、患者会

情報、グリーフケアなど幅広いニーズがあるという回答がえられた。

群馬県におけるがん情報提供・相談支援に関わるがんナビの育成とフォローを行った。現在、群馬県で資格をとったがんナビのメンバーとメールで連絡しあえる体制をつくった。

3)がんナビの制度委員長としてがんナビの全国普及のために連絡を行った。

この間、福岡、群馬、熊本の3県のモデル事業から全国14都道府県の重点地域にがんナビ認定事業は拡大した。

さらにはがんナビ制度をe-learning修了によって認定されるナビとコミュニケーションスキル・セミナー受講、主にがん診療連携拠点病院への実地見学修了後に認定されるシニアナビの二段階認定方式を導入した。その結果、がんナビ374名、シニアナビ79名まで増加している。特に最近調剤薬局の薬剤師の認定が増加している。

癌治療学会におけるがんナビ養成のための多くの会議に出席し、意見を述べた。

### D. 考察

本研究の背景には、がん対策推進基本計画の重要施策の一つである「がんに関する相談支援と情報提供」は、がん相談支援センターの低い認知度、施設間や地域間格差などにより十分に機能していないとされる状況がある。現在のがん診療連携拠点病院における情報提供・相談支援に関わる人員配置の現実は年々高まる多彩なニーズに対応するには不十分であり、がん拠点病院からの周知活動にも限界がある。さらに群馬県などでは少子高齢化のすすんだ過疎地域ではがん患者の高齢化や独居など、特有の

問題を抱えているものと考えられる。がん拠点病院からの物理的な距離のみならず、独居の高齢者や介護を要する高齢がん患者が適切な情報を得て、適切な福祉を享受することは容易ではない。しかしながら、そのような実態を明らかにする調査は行われていなかった。今回のアンケート調査は病院・診療所・地域統括センター・訪問看護ステーション・居宅介護事業所・訪問看護事業所・訪問介護事業所・保険薬剤局・市町村の窓口・保健所・公共図書館・患者会などがん診療に関わる可能性のある施設に幅広く行われた。

その結果、群馬県では居住介護支援事業所・ケアセンターからの回答が多く、この割合は全体や他の都道府県に比べても際立って高いものであった。

前述のごとく、がん患者の高齢化や独居などの問題を抱える群馬県では、居住介護支援事業所・ケアセンターなどが、対応している可能性がある。さらにその情報提供のニーズの解析からがん患者の看取りの時期の支援のニーズが感じられる。

居住介護支援事業所・ケアセンターはがん患者に特化した施設ではなく、がん患者は通常的要介護の患者の中で介護を受けているもの推察される。したがって、今後がん診療連携拠点病院をはじめとした癌治療を行っている病院施設と居住介護支援事業所・ケアセンターなどとの連携が十分に行われているかを検証する必要がある。

適切ながんに関する情報を入手することを円滑に行うためには、市井にあってがんの情報提供や相談支援への手助けができる人材の育成が急務であり、この点に本研究の最大の意義がある。そのための活動は、

地域間の大きな実情の差を考慮しながらも、全国展開をしていかなければならない。がんナビ 374 名、シニアナビは 79 名まで増加した。特に最近調剤薬局の薬剤師の認定が増加している。調剤薬局の薬剤師はがん患者に対面で接する機会も多く、潜在的なニーズを拾い上げることができる可能性がある。

がんの情報を適切に提供する上で、それぞれの地域に根差した活動が必要なことは論を待たない。群馬県のアンケートによって、群馬県におけるがんの情報がどこで求められているのか、さらに連携を強化すべきところが明らかになってきた。

群馬県で育成したがんナビが群馬県で意義ある連携の活動ができるようさらに活動をすすめる予定である。

## E . 結論

本研究の目的を達するためには、まずがんナビを全国へ展開すること、そしてがん診療連携拠点病院との密接な連携が必要である。現在、全国展開は現実のものとなってきた。さらに今回のアンケート調査によって、群馬県におけるがん情報のニーズが明らかになってきた。地道な作業であっても、がん対策推進基本計画の達成のためには、本研究のような活動は継続していく必要があると考える。

## F . 健康危険情報

なし

## G . 研究発表

I 著書

なし

## II 総説

1. Kubo N, Shirabe K. Treatment strategy for isolated bile leakage after hepatectomy: Literature review. *Ann Gastroenterol Surg*. 2019 Dec 5;4(1):47-55. doi: 10.1038/modpathol.3800383.
2. Shirabe K, Bekki Y, Gantumur D, Araki K, Ishii N, Kuno A, Narimatsu H, Mizokami M. Mac-2 binding protein glycan isomer (M2BPGi) is a new serum biomarker for assessing liver fibrosis: more than a biomarker of liver fibrosis. *J Gastroenterol*. 2018 Jul;53(7):819-826. doi: 10.1007/s00535-017-1425-z. Epub 2018 Jan 9.
3. Araki K, Kubo N, Watanabe A, Kuwano H, Shirabe K. Systematic review of the feasibility and future of laparoscopic liver resection for difficult lesions. *Surg Today*. 2018 Jul;48(7):659-666. doi: 10.1007/s00595-017-1607-6. Epub 2017 Nov 13.

## III 原著

1. Yamanaka T, Harimoto N, Yokobori T, Muranushi R, Hoshino K, Hagiwara K, Gantumur D, Handa T, Ishii N, Tsukagoshi M, Igarashi T, Tanaka H, Watanabe A, Kubo N, Araki K, Shirabe K. Nintedanib inhibits intrahepatic cholangiocarcinoma aggressiveness via suppression of cytokines extracted from activated cancer-associated fibroblasts. *Br J*

*Cancer*. 2020 Feb 4.

doi:10.1038/s41416-020-0744-7.

Online ahead of print.

2. Igarashi T, Shimizu K, Usui K, Yokobori T, Ohtaki Y, Nakazawa S, Obayashi K, Yajima T, Nobusawa S, Ohkawa T, Katoh R, Motegi Y, Ogawa H, Harimoto N, Ichihara T, Mitani Y, Yokoo H, Mogi A, Shirabe K. Significance of RAS mutations in pulmonary metastases of patients with colorectal cancer. *Int J Clin Oncol*. 2019 Nov 26. doi: 10.1007/s10147-019-01582-z. Online ahead of print.
3. Kurozumi S, Inoue K, Matsumoto H, Fujii T, Horiguchi J, Oyama T, Kurosumi M, Shirabe K. Clinicopathological values of PD-L1 expression in HER2-positive breast cancer. *Sci Rep*. 2019 Nov 13;9(1):16662. doi: 10.1038/s41598-019-52944-6.
4. Yokobori T, Yazawa S, Asao T, Nakazawa N, Mogi A, Sano R, Kuwano H, Kaira K, Shirabe K. Fucosylated 1-acid glycoprotein as a biomarker to predict prognosis following tumor immunotherapy of patients with lung cancer. *Sci Rep*. 2019 Oct 10;9(1):14503. doi: 10.1038/s41598-019-51021-2.
5. Harimoto N, Hoshino K, Muranushi R, Hagiwara K, Yamanaka T, Ishii N, Tsukagoshi M, Igarashi T, Tanaka H, Watanabe A, Kubo N, Araki K, Hosouchi

- Y, Suzuki H, Arakawa K, Hirai K, Fukazawa T, Ikota H, Shirabe K. Prognostic significance of neutrophil-lymphocyte ratio in resectable pancreatic neuroendocrine tumors with special reference to tumor-associated macrophages. *Pancreatology*. 2019 Sep;19(6):897-902. doi: 10.1016/j.pan.2019.08.003. Epub 2019 Aug 7.
6. Ishii N, Harimoto N, Araki K, Muranushi R, Hoshino K, Hagiwara K, Gantumur D, Yamanaka T, Tsukagoshi M, Igarashi T, Tanaka H, Watanabe A, Kubo N, Shirabe K. Preoperative Mac-2 binding protein glycosylation isomer level predicts postoperative ascites in patients with hepatic resection for hepatocellular carcinoma. *Hepatol Res*. 2019 Dec;49(12):1398-1405. doi: 10.1111/hepr.13412. Epub 2019 Aug 9.
  7. Kurozumi S, Joseph C, Sonbul S, Alsaeed S, Kariri Y, Aljohani A, Raafat S, Alsaleem M, Ogden A, Johnston SJ, Aleskandarany MA, Fujii T, Shirabe K, Caldas C, Ashankyty I, Dalton L, Ellis IO, Desmedt C, Green AR, Mongan NP, Rakha EA. A key genomic subtype associated with lymphovascular invasion in invasive breast cancer. *Br J Cancer*. 2019 Jun;120(12):1129-1136. doi: 10.1038/s41416-019-0486-6. Epub 2019 May 22.
  8. Harimoto N, Hoshino H, Muranushi R, Hagiwara K, Yamanaka T, Ishii N, Tsukagoshi M, Igarashi T, Watanabe A, Kubo N, Araki K, Shirabe K. Skeletal Muscle Volume and Intramuscular Adipose Tissue Are Prognostic Predictors of Postoperative Complications After Hepatic Resection. *Anticancer Res*. 2018 Aug;38(8):4933-4939. doi: 10.21873/anticancer.12810.
  9. Kurozumi S, Joseph C, Sonbul S, Aleskandarany MA, Piger M, Alsaleem M, Alsaeed S, Kariri Y, Nolan CC, Diez-Rodriguez M, Johnston S, Mongan NP, Fujii T, Shirabe K, Martin SG, Ellis IO, Green AR, Rakha EA. Clinicopathological and prognostic significance of Ras association and pleckstrin homology domains 1 (RAPH1) in breast cancer. *Breast Cancer Res Treat*. 2018 Nov;172(1):61-68. doi: 10.1007/s10549-018-4891-y. Epub 2018 Jul 28.
  10. Harimoto N, Yoshizumi T, Inokuchi S, Itoh S, Adachi E, Ikeda Y, Uchiyama H, Utsunomiya T, Kajiyama K, Kimura K, Kishihara F, Sugimachi K, Tsujita E, Ninomiya M, Fukuzawa K, Maeda T, Shirabe K, Maehara Y. Prognostic Significance of Preoperative Controlling Nutritional Status (CONUT) Score in Patients Undergoing Hepatic Resection for Hepatocellular Carcinoma: A

- Multi-institutional Study. *Ann Surg Oncol*. 2018 Oct;25(11):3316-3323. doi: 10.1245/s10434-018-6672-6. Epub 2018 Jul 26.
11. Yanoma T, Ogata K, Yokobori T, Ide M, Mochiki E, Toyomasu Y, Yanai M, Kogure N, Kimura A, Suzuki M, Nakazawa N, Bai T, Oyama T, Asao T, Shirabe K, Kuwano H. Heat shock-induced HIKESHI protects cell viability via nuclear translocation of heat shock protein 70. *Oncol Rep*. 2017 Sep;38(3):1500-1506. doi: 10.3892/or.2017.5844. Epub 2017 Jul 21.
  12. Tsukagoshi M, Araki K, Saito F, Kubo N, Watanabe A, Igarashi T, Ishii N, Yamanaka T, Shirabe K, Kuwano H. Evaluation of the International Consensus Guidelines for the Surgical Resection of Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms. *Dig Dis Sci*. 2018 Apr;63(4):860-867. doi: 10.1007/s10620-017-4667-y. Epub 2017 Jun 30.
- 症例報告
1. Igarashi T, Harimoto N, Matsumura N, Sugiyama M, Araki K, Yokobori T, Kosone T, Takagi H, Aishima S, Yokoo H, Shirabe K. Fairly rare small-diameter hepatocellular carcinoma with right adrenal gland metastasis having an inferior vena cava tumor thrombus: a case report. *Surg Case Rep*. 2019 Nov 6;5(1):170. doi: 10.1186/s40792-019-0705-7.
  2. Igarashi T, Harimoto N, Nobusawa S, Yoshida Y, Yamanaka T, Hagiwara K, Hoshino K, Ishii N, Tsukagoshi M, Watanabe A, Kubo N, Araki K, Yokobori T, Yokoo H, Shirabe K. Evaluation of KRAS Mutation Status in a Patient With Concomitant Pancreatic Neuroendocrine Neoplasm and Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm. *Pancreas*. 2019 May/Jun;48(5):e34-e35. doi: 10.1097/MPA.0000000000001286.
  3. Sano A, Sakurai S, Komine C, Tabe Y, Saito K, Fukasawa T, Kiriyama S, Yamamoto H, Tani M, Naitoh H, Shirabe K, Kuwano H. Paget's disease derived in situ from reserve cell hyperplasia, squamous metaplasia, and squamous cell carcinoma of the esophagogastric junction: a case report. *Surg Case Rep*. 2018 Jul 25;4(1):81. doi: 10.1186/s40792-018-0489-1.
  4. Hagiwara K, Araki K, Yamanaka T, Ishii N, Igarashi T, Watanabe A, Kubo N, Harimoto N, Kuwano H, Nobusawa S, Aishima S, Shirabe K. Resected primary mucinous cholangiocarcinoma of the liver. *Surg Case Rep*. 2018 May 2;4(1):41. doi: 10.1186/s40792-018-0450-3.
  5. Ishii N, Araki K, Yamanaka T, Handa T, Tsukagoshi M, Igarashi T, Watanabe A, Kubo N, Aishima S, Kuwano H, Shirabe K. Small

cholangiolocellular carcinoma that was difficult to distinguish from cholangiocellular carcinoma: a case report. Surg Case Rep. 2017 Sep 15;3(1):103. doi: 10.1186/s40792-017-0377-0.

V 学会発表  
なし

#### H . 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし